

【花き】 高温条件下における花きの暑熱対策について

令和7年8月1日

県北農林事務所農業振興普及部

1 花き類における高温・乾燥の影響

キク類では、栄養成長が旺盛な時期に水分が不足すると、節間の伸長が抑えられ短茎開花となります。また、花芽の発達段階である発蕾期前後に高温を受けると開花遅延を生じることがあります。品種により反応の程度に幅はありますが、とりわけ、発蕾期前の小花分化・発達期が高温に弱い時期とされています。

リンドウでは、高温により花弁の着色障害発生が助長されます。品種により程度は異なりますが特にエゾリンドウ系の品種において注意が必要です。西日を強く受けるほ場では、発生割合が高くなる傾向にあります。また、発蕾期以降の高温は、花芽発達の停滞や開花遅延を起こす可能性もあります。

トルコギキョウでは、高温・長日条件下において、花芽分化が助長され開花節位が低くなることで、短茎化による規格の低下や生育前進化による出荷時期の前進等を生じます。また、品種によっては、強日射により花弁の日焼けも懸念されます。

鉢物類の中でもシクラメンは、新葉の展開抑制に伴う塊茎肥大及び側芽発生の停滞や強日射による葉の日焼けを生じます。

害虫の発生が前進化するとともに、発生数も多い様子が見受けられます。過去にもハダニ類やアザミウマ類、アブラムシ類、オオタバコガの多発や被害増加が見られています。

2 高温対策

(1) 土壌水分の確保

キク類やリンドウなどの露地品目では、うね内部が乾燥しないよう、可能な範囲で積極的にうね間灌水や手灌水などを行いましょう。特に、伸長旺盛な時期の乾燥は、過去の高温乾燥年に短茎化が見受けられているため、注意しましょう。

とりわけキク類では、無マルチ栽培は、土壌中の水分を保つことで、地温上昇の抑制効果が期待できます。併せて、高温期における土壌の乾燥は、小ギクの開花遅延をもたらすことから、発蕾期以降の土壌水分確保は、計画生産のために有効と考えられます。

一方、ポットやセルトレイ育苗中の苗や鉢物では、用土が限られ乾き易いので、こまめな灌水により、植物体を萎れさせないように管理しましょう。

(2) 遮光

リンドウやトルコギキョウ、シクラメンなどは、高温や強日射の影響が懸念されるため、可能な範囲で遮光幕や遮熱資材を活用し、被害低減に努めましょう。

(3) 適期管理

トルコギキョウなど、高温により生育が前進する花き類については、管理作業の遅れが生じないよう、生育状況と作業スケジュールを確認し、適期管理に努めましょう。

(4) 葉面散布

高温期は、カルシウム欠乏による葉先枯れ症状（トルコギキョウ、リンドウ、キク類）などの生理障害が生じやすくなります。生育状況に応じて、葉面散布による養分補給を行いましょう。

(5) 涼しい時間帯の収穫

切り花の品質を保つため、収穫作業を朝夕の涼しい時間帯に行いましょう。日中の収穫では、品温が上昇しやすいことから切り花にダメージを与えやすく、蒸散が盛んでもあり水揚げしにくい状態となります。

3 病虫害対策

露地品目では、アザミウマ類、オオタバコガ、アブラムシ類など害虫の発生や被害が多数見受けられます。

ほ場の発生状況に応じて、適期防除を行うとともに、害虫の発生が続く場合は、例年より防除回数を増やすなどの対応をとりましょう。

なお、農薬の使用に際しては、登録内容を守り、メーカー等が公表する残効性などの特性を踏まえ計画的かつ効果的に使用しましょう。